



豊かな将来性と広がる可能性

北海道登別青嶺高等学校



平成17年度に『登別南高等学校』と『登別高等学校』が統合して誕生した『登別青嶺高等学校』。2校の伝統を引き継ぎ、地域に密着した取り組みを進める同校について、紹介します。

この春、登別青嶺高等学校の卒業生は、自分の目指す未来に向かって羽ばたいていきました。

同校では、生徒一人ひとりの3年間を『高校入門期』となる第1期から『実力完成期』の第6期に分け、それぞれの学期に応じた目標をもちながら、高校生活を送ることで、進路実現につなげています。

この取り組みは、全道的にも珍しく同校の特色の一つとなっています。そのほか、3年生にはメンター（良き指導者、理解者、支援者）制度を取り入れ、教職員がメンターとなり、一丸となって、生徒一人ひとりの目標達成に向けた支援を行っています。

今年度の進路先としては、さらなる学びの場を求めて、室蘭工業大学をはじめとした大学に23人、短期大学に2人、看護学校に5人が、日本工学院北海道専門学校をはじめとし

一人ひとりの思いを大切に



▲地域のさまざまな企業が一同に会した生徒『企業説明会』で熱心に説明を聞く

た専門学校には44人が進学しました。また、近年、地元への就職を希望する卒業生が多い傾向がある同校。51人が胆振管内に、7人が胆振管内を除く道内に、1人が道外に就職したほか、北海道警察などの公務員試験に7人が合格しました。

今年も、登別青嶺高等学校を巣立った多くの卒業生が、新たな門出を迎えます。

▼問い合わせ 北海道登別青嶺高等学校 (☎055886)

人が輝き まちがとぎめく

仲間たち

Group

若草歌練会

若草歌練会は、約25年前に地域で生活する人々が歌を通して交流と親睦を深めるために発足したカラオケサークルです。

現在のメンバーは、登別市と室蘭市に住む60代から80代までの男女7人。毎月第2・第4木曜日の18時から20時まで、若草つどいセンターで、会員それぞれの自慢の歌声を披露しています。

代表の広瀬義秋さんは、「会員が好きな歌のカセットテープを持ち寄って、一年かけて、練習します。目標は人それぞれ。カラオケを楽しむことを第一に参加している人もいれば、年一回、他のサークルと合同で行うカラオケ大会で優勝を目指す人



▲他の会員の歌声に耳を傾けるメンバー

カラオケを通して心を通わせる

「カラオケは、ちょっとした間の取り方だけでも聞こえ方が大きく変わる、とても奥が深いものです。歌っていると自分では気付かないくせが出てしまうもの。やはり多くの人に聞いてもらうことが、一番の練習ですね」と教えてくれたのは、歌の指導に当たる小松孝宏さん。毎年、鷺別公民館で発表会も行っている同サークルで、一緒にカラオケを楽しみたい方は、広瀬さん(☎090-1827016009)まで。